

『北海道経済の多面的分析 TPPによる所得増加への道筋』  
(慶應義塾大学出版会 2014年8月30日初版第1刷発行)  
正誤表・付記

2015年7月16日 遠藤 正寛

本書に含まれる誤りや、本文に付記しておいたほうが読者の理解の助けになると思われる事項を、以下にまとめました。

1. 序文:iv ページ、上から7行目

- (語) 2001年11月に  
(正) 2001(平成13)年11月に

2. 序文:iv ページ、上から10行目

- (語) 2014年2月現在の  
(正) 2014(平成26)年2月現在の

3. 第1章:2 ページ、下から10行目

- (語) 2000年中頃に  
(正) 2000年代中頃に

4. 第1章:26 ページ、下から2行目

- (語) 2013年3月末日に  
(正) 2013(平成25)年3月末日に

5. 第1章:31 ページ、上から16行目から19行目

- (誤) 例えば、図1-12-2では、…、2007(平成19)年度ではそれぞれ  
(正) 例えば、図1-12-1では、…、2009(平成21)年度ではそれぞれ

6. 第1章:50 ページ、上から11行目

- (誤) 問い合わせを  
(正) 問い合わせ~~を~~を

7. 第2章:71 ページ、上から14行目

- (誤) 比べますと  
(正) 比べ~~ます~~ますと

8. 第2章:71 ページ、上から 19 行目

(誤) 安定していま。

(正) 安定していま**す**。

9. 第2章:80 ページ、図 2-8 の凡例

(誤) 県内総生産

(正) 県内**純**生産

10. 第2章:81 ページ、上から 4 行目・5 行目・10 行目・19 行目(4 箇所)

(誤) 県内総生産

(正) 県内**純**生産

11. 第2章:81 ページ、上から 12 行目・14 行目(2 箇所)

(誤) 道内総生産

(正) 道内**純**生産

12. 第3章:95 ページ

(付記) 2012 年の日本のサービス収支において、特に旅行で赤字幅が大きかったと説明しています。

しかし、日本の旅行収支は 2014 年度後半から黒字化しました。

13. 第3章:96 ページ、上から 4 行目

(誤) 日本の第一次所得収支は

(正) 日本の第**1**次所得収支は

(付記) 日本銀行が集計・推計している日本の国際収支統計では、「第一次所得収支」、「第二次所得収支」と漢数字を使っています。しかし、本書では編集者の方と相談した結果、「第 1 次所得収支」、「第 2 次所得収支」と算用数字にしています。

14. 第3章:110 ページ、上から 11 行目

(誤) 「家計、個人企業、民間非営利団体」

(正) 「家計**・**個人企業**・**民間非営利団体」

15. 第3章:111 ページの図 3-2、113 ページの図 3-3

(付記 1) 図 3-2 のタイトルは「北海道の部門別域際収支」とありますが、各制度部門の収支は道外との取引の収支ではなく、各道内制度部門と他の道内外制度部門との取引の収支であることに留意してください。ただ、それぞれの道内制度部門の収支を合計すると、道内取引が相殺され、北海道の域外収支と等しくなります。図 3-3 についても同様です。

(付記 2) 図 3-2 と図 3-3 において、「統計上の不突合」の調整方向が異なります。例えば、図 3-2 の北海道の事例では、北海道内の各制度部門の「貯蓄－道内総固定資本形成－在庫品増加＋固定資本減耗」

を計算して合計しますと、その値は北海道の「経常収支」を上回っていました。そしてその差は、道民経済計算の「統合勘定」に記載されている「統計上の不突合」と同じでした。また、北海道内の各制度部門の「一土地の購入－純貸出(+)／純借入(-)」を計算して合計しますと、その値は北海道の「金融収支」からこの「統計上の不突合」を差し引いた値と同じでした。他方、図3-3の日本の事例では、「統計上の不突合」の調整方向が「経常収支」と「金融収支」で北海道の事例と逆でした。

16. 第4章:130 ページ、表 4-1-3

(誤)

	北	南
資本	10	20
労働	10	5
製造・サービス 産出比率	1 (サービス業が 比較的多い)	4 (製造業が 比較的多い)

(正)

	北	南
製造業	10	20
サービス業	10	5
製造・サービス 産出比率	1 (サービス業が 比較的多い)	4 (製造業が 比較的多い)

17. 第4章:145 ページ、図 4-7 の注

- (誤) 農地投入係数＝農業付加価値(単位:千円)／経営耕地面積(単位:アール)  
 労働投入係数＝農業付加価値(単位:千円)／農業労働時間(単位:時間)  
 資本投入係数＝農業付加価値(単位:千円)／農業固定資産額(単位:千円)
- (正) 農地投入係数＝経営耕地面積(単位:アール)／農業付加価値(単位:千円)  
 労働投入係数＝農業労働時間(単位:時間)／農業付加価値(単位:千円)  
 資本投入係数＝農業固定資産額(単位:千円)／農業付加価値(単位:千円)

18. 第6章:194 ページの表 6-1、注の4行目

- (誤) 「減価償却費」・「賃借料」、「租税公課」の合計です。  
 (正) 「減価償却費」・「賃借料」・「租税公課」の合計です。

19. 第6章:195 ページ、下から4行目の数式(6-1)

- (誤) TFP(売上高ベース) = 付加価値／全要素(労働、資本、原材料)投入量  
 (正) TFP(売上高ベース) = 売上高／全要素(労働、資本、原材料)投入量

20. 第6章:222 ページ、上から13行目の冒頭

(誤) en

(正) gen

21. 第6章:224 ページ、表6-補-1

(誤)

日経 NEEDS	ソースコード
日経会社コード	firm_id
決算期	term_****
【ヘッダー項目】	
R022 日経業種:コード	ind_code_****
R024 本社所在地:コード	heads_code_****
【製造原価明細(期首からの累計期間)】	
K038 労務費・福利厚生費[累計]	lab_costs1_****
K043 (減価償却費)[累計]	dep1_****
K044 (賃借料)[累計]	lease1_****
K045 (租税公課)[累計]	tax1_****
【損益計算書(期首からの累計期間)】	
D029 営業利益[累計]	profit_****
【製造原価明細(期首からの累計期間)】	
K075 【販管費】人件費・福利厚生費[累計]	lab_costs2_****
K077 【販管費】減価償却費[累計]	dep2_****
K079 【販管費】賃借料[累計]	lease2_****
K080 【販管費】租税公課[累計]	tax2_****
【その他項目】	
H021 期末従業員数	labor_****
【貸借対照表(資産)】	
B027 リース債権及びリース投資資産	capital1_****
B064 償却対象有形固定資産	capital2_****
B075 土地・その他非償却対象有形固定資産	land_****

(正)

日経 NEEDS	ソースコード
日経会社コード	firm_id
決算期	term_****
<ヘッダー項目>	
R022 日経業種:コード	ind_code_****
R024 本社所在地:コード	heads_code_****
<製造原価明細(期首からの累計期間)>	

K038 【製造原価】労務費・福利厚生費[累計]	lab_costs1_****
K043 【製造原価】(減価償却費)[累計]	dep1_****
K044 【製造原価】(賃借料)[累計]	lease1_****
K045 【製造原価】(租税公課)[累計]	tax1_****
<損益計算書(期首からの累計期間)>	
D029 営業利益[累計]	profit_****
<販売費及び一般管理費(期首からの累計期間)>	
K075 【販管費】人件費・福利厚生費[累計]	lab_costs2_****
K077 【販管費】減価償却費[累計]	dep2_****
K079 【販管費】賃借料[累計]	lease2_****
K080 【販管費】租税公課[累計]	tax2_****
<その他項目>	
H021 期末従業員数	labor_****
<貸借対照表(資産)>	
B027 リース債権及びリース投資資産	capital1_****
B064 償却対象有形固定資産	capital2_****
B075 土地・その他非償却対象有形固定資産	land_****

22. 第7章:251 ページ、図 7-6 の縦軸と横軸(2箇所)

- (誤) (対数値、…)
- (正) (対数**目盛**、…)

23. 第7章:251 ページ、上から5行目

- (誤) 対数値をとっていますので、
- (正) 対数**目盛**にしていますので、

24. 第7章:252 ページ、下から11行目から10行目

- (誤) 横軸は需要量の対数値、縦軸は消費者価格の対数値ですので、
- (正) 横軸は需要量、縦軸は消費者価格**で、どちらも対数目盛にしていますので、**

25. 第7章:253 ページ、図 7-7 の縦軸と横軸(2箇所)

- (誤) (対数値、…)
- (正) (対数**目盛**、…)

26. 第7章:260 ページ、上から10行目

- (誤) 北海道における生乳や乳製品の
- (正) **生乳や乳製品の**

27. 第 8 章:279 ページ、上から 10 行目

(誤) 本章のこれまでの分析では、小国という設定を用いてきました。

(正) 前章の第 1 節や第 2 節の分析では、小国の設定を用いました。

28. 第 8 章:305 ページ、注 18 の上から 4 行目

(誤) 表 5-6 の

(正) 表 5-5 の

29. 謝辞:312 ページ、上から 12 行目

(誤) 本署の

(正) 本書の

【謝辞】この正誤表の作成にあたり、小樽商科大学商学部経済学科の柴山千里教授ならびに柴山千里研究会の方々のご協力を得ました。ありがとうございました。